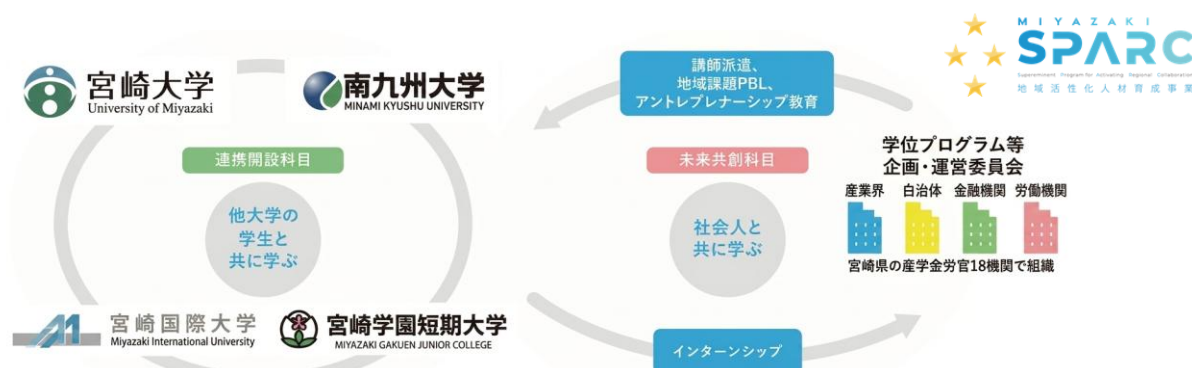


令和 7 年度の主な成果

地域活性化人材育成事業(SPARC) ～4大学連携による「未来共創人材」育成～

中期計画
1

- 令和4年度より宮崎大学(事業責任大学)、南九州大学、宮崎国際大学及び宮崎学園短期大学の4大学と自治体及び産業界等の地域社会が連携する「新しい価値を創造し持続可能な地域づくりを牽引する『多様な未来共創人材』の育成プログラム」として事業を開始。
- 令和7年度入学生より全学部(医学部医学科を除く)で「SPARC学位プログラム」が導入された。
- 発展的な「**SPARC未来共創教育プログラム**」については、令和6年度に宮崎大学で先行実施、令和7年度からは4大学全体で本格始動し、約290名が履修した。
- 令和7年3月に一般社団法人高等教育コンソーシアム宮崎が「**大学等連携推進法人**」の認定を受けたことで、連携開設科目の開講が可能となり令和7年度から参加4大学間で、本学開設19科目(未来共創科目を含む)、宮崎国際大学開設4科目の**合計23科目の連携開設科目を開講**。令和8年度には専門科目6科目を含む、35科目の連携開設科目を開講予定である。



【連携開設科目】地域キャリアデザインⅠ(キャリア)

- 宮崎大学、南九州大学及び学園短期大学の3大学4キャンパスにて対面・同時双方向の授業を開講し、合計1,083名(宮崎大学946名、南九州大学98名、宮崎学園短期大学39名)の学生が受講。9割以上の受講生が満足できたと回答。
- 本科目は「未来共創科目」のひとつで、本学が主担当。学位プログラム等企画・運営委員会で設定された**未来共創人材**(大学に求められる人材育成像)の育成において、中核を担う。



未来共創科目を活用した社会人リカレント教育

「企業・学生・自治体」がフラットな立場で混ざり合い、試行錯誤しながら新しい価値を生み出す「共創型」のプログラム。

【実例1】吉玉精鍍(株)は、学生との「100の質問」で固定観念を打破。自社の強みを再発見し、新規事業への意欲を高めた。



【実例2】新富町を舞台に学生と複数企業が農業課題に取り組むなど、自身の専門性を地域に最適化する「ローカライズ思考」を実践。

詳細はこちら

令和8年度より未来共創科目「SPARCプロジェクト実践演習Ⅰ(提案型)」として本格実施される。

中間評価で「総合評価A」

令和7年度、地域活性化人材育成事業(SPARC)委員による中間評価現地調査が実施され、「総合評価A」を獲得した。

➤ [地域活性化人材育成事業 MIYAZAKI-SPARC](#)

「未来共創人材」に必要な3つの力



「未来共創人材」ってこんな人

時代の変化に目を向け、柔軟に戦略立案・意思決定ができる
事業拡大やイノベーションに挑戦し、企業や地域等を支えることができる
自ら主体的・積極的に価値を創造するチャレンジマインドが持てる
横断的で広い視野を持ち、多様な人と繋がり、巻き込むことができる

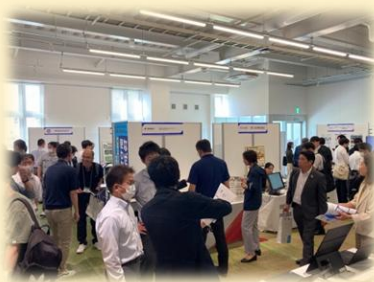
- 令和6年度文部科学省補正予算事業「リカレント教育エコシステム構築支援事業」において、**「みやざきデジタルノーマルを実現するリスキル・リカレント教育体制構築」**が採択され、地域企業のニーズに即した教育体制の拡充を加速し、DX人材育成を通じた地方活性化に寄与した。
- 宮崎県デジタル人材育成コンソーシアム**(会長:宮崎大学長)と連携し、経営者層のデジタル導入メリットへの理解促進と、企業と併走して行う「企業寄添型リスキルプログラム」を展開。
- 学び・学生支援機構に「リカレント教育推進室」を新設し、学内の体制強化を図った。また、**宮崎県デジタル人材育成コンソーシアムを一般社団法人化**し、事業の継続的・自立的運用に向けた体制を構築した。(令和7年度:33機関がコンソーシアムに参画)
- 令和7年度の主な実績
 - ①宮崎県内4機関(2自治体・2民間企業)を対象に、学生と企業が協働でデジタルを用いた地域課題解決に取り組むインターンシッププログラム「DX実践」を実施。(例:観光アプリ試作)
 - ②テレビCM放映やスマートフォンアプリ「みやデジアプリ」の機能改修(UI改善・オープンバッジ通知機能追加等)を行い、県内におけるリカレント教育の周知と受講環境の利便性向上を推進。

実施体制



- Basic Course:198名受講(企業派遣45%)
- Advanced Course:32名受講(企業派遣100%)
- DX実践(PBL):12名受講(2企業、2自治体)

▼MIYAZAKI AIEspo2025×みやデジ・ラボ



- 令和7年9月、錦本町ひなたキャンパスにて、産学官連携のDX・AIイベントを開催
- 20社以上のAIソリューションの展示やGoogle等の有識者による特別講演、県内のDX事例紹介を実施し、約170名が参加した。

➤ 宮崎大学データサイエンス・AIリカレント教育推進事業

リカレント教育講座「ひなた学び塾」

令和7年4月より「ひなた学び塾」を新たに開講した。本講座は、同年4月にオープンした錦本町キャンパスを使用した新たな取組であり、**広く社会人へ大学の授業(学び)を提供する**。令和7年度は、第一期と第二期を合わせて、6講座開講。1講座につき週1回×全8回の継続学習を通して、知識の習得+対話による「知識を使いこなす力」を育成する。

○体系的獣医師卒後教育プログラム

- 国際的かつ先導的な感染症研究の成果を含めた体系的獣医師卒後教育プログラムは、農学部と産業動物防疫リサーチセンター(CADIC)が**全国で初めて実施する産業動物従事者を対象とした人材育成事業**である。
- 最新の産業動物臨床に必要な知識や技術を身に付けた獣医師育成のため、オンラインを活用した講座や本学の農場で実践的に学ぶ講座など幅広く実施しており、令和4年～7年度において累計105講座を開講した。(受講者総数:1,994名)
- 並行し、継続的な使用ができるビデオ教材として、専門スキルの向上に資する2D及び3Dの動画教材を製作している。ICT・VR技術を活用した動画教材を31本整備し、ウェブサイトやMoodle上に公開し、全国の獣医師等へ提供している。

事業HPはこちら



▲オンライン講座



▲農場での講座



○「農場管理認定獣医師」の取得要件

- 令和4年度以降、日本獣医師会が実施する農場管理専門獣医師育成のための高度・実践的研修会に活用されており、令和6年度からの新制度「農場管理認定獣医師」を取得するための認定プログラムにも位置付けられている。
- ✓ 農場管理認定試験の受験に活用した研修受講者数
【乳牛部門】R6-R7実績 14名 【肉牛部門】R6-R7実績 10名

○JRA畜産振興事業への採択

- 地域横断型産業動物臨床卒後教育事業(令和7年～9年度:交付限度額47,176千円)では、「産業動物臨床獣医師卒後教育のICTを活用した拡幅事業(令和4年～6年度実施)」で策定したプログラムを修訂しながら鹿児島大学と共同実施。
- 「産業動物臨床獣医師卒後教育のICTを活用した拡幅事業」に係る令和6年度外部評価では、**最高ランクのS評価**を得るなど、国内随一の教育体制として質・量ともに高く評価されている。



▼第168回日本獣医学会学術集会(2025年9月)

➤ 関連ニュース(本学ウェブサイト)



- 令和7年9月3日～6日の4日間、「新時代の獣医学」をテーマに宮崎で開催され、本学農学部獣医学科の教授が学術集会長を務めた。3日～5日はフェニックス・シーガイアコンベンションセンターにて一般講演やシンポジウム、6日は錦本町ひなたキャンパスにて市民公開講座や高校生によるポスターセッションが行われた。
- 本学での取組を紹介し、今後の教育に活用できることをアピールした。

戦略的広報の強化および地域社会の課題解決、経済活性化を目指して、**KDDI、宮崎放送、テレビ宮崎**の3社とそれぞれ包括的連携を締結した。これら強固な産学連携を通じ、農林水産業をはじめとする持続可能な地域社会の実現を図っている。



2025年7月 株式会社宮崎放送(MRT)

- 宮崎大学と株式会社宮崎放送(MRT)とが両者の専門性と知見を最大限に引き出し、宮崎県における地域社会の課題解決と未来の価値創造に共同で取り組む。
- 2026年にはMRT新社屋が錦本町ひなたキャンパスに隣接して完成予定。学生が授業の延長線上で番組制作や情報発信に関われる、国内でも稀有な実践環境が整う。



▲連携協定締結の様子

2025年9月 KDDI株式会社



▲連携協定締結の様子



- 宮崎大学とKDDI株式会社が協力し、地域課題の解決に向けたアプローチモデル及びその実績を創出すること。また、地域課題の解決に伴い、双方のプレゼンス向上を図る。
- 具体的には、ドローンを活用したスマート農業の実証や太陽光発電・蓄電設備・営農型発電の設置推進、災害時のエネルギー対策強化などに取り組み、宮崎県の地域経済の活性化と地域の安心・安全への貢献を目指す。

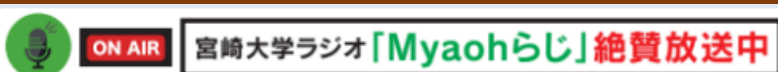
2025年10月 株式会社テレビ宮崎(UMK)

- 宮崎大学と株式会社テレビ宮崎が双方の資源を有効に活用した協働活動を通じて、地域課題の解決および持続可能な地域社会の実現を目指す。
- 地域振興・観光振興、農林水畜産業、環境・エネルギー、防災・災害対策、保健福祉、人材育成といった幅広い分野で相互に協力し、宮崎県の恒久的な発展に寄与する。



▲連携協定締結の様子

広報強化・情報発信の新たな取組



<Bunnyのナツウタ～昭和歌謡をあなたに～>
(毎週金曜日11時30分～13時55分)

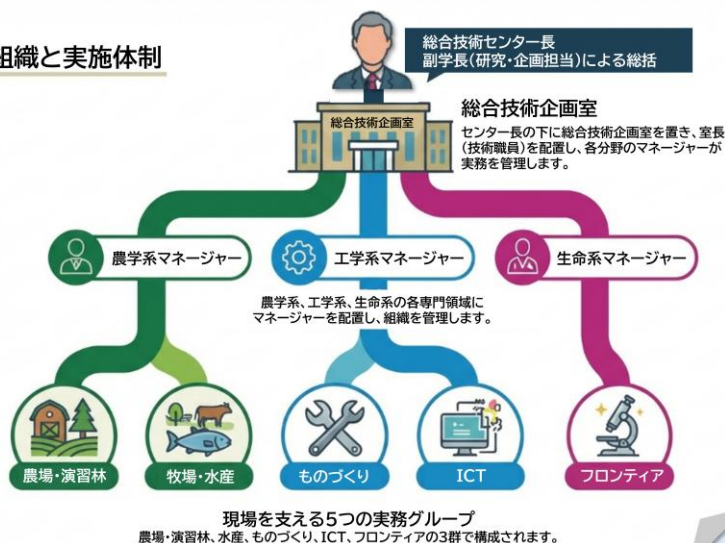
2025年4月から、FM宮崎の番組内で5分間のコーナー『**宮崎大学ラジオ Myaohらじ**』が開始された。宮崎大学をもっと広く深く知ってもらうための情報発信を医学部中心に行っており、地元メディアと連携した広報を行うための体制強化が進んでいる。



○「総合技術センター」の設置

- 「総合技術センター」は、これまで各部局に分散していた技術職員組織を一元化し、全学的な技術支援体制を横断的に管理・運用するため、令和7年4月に設置された。
- 農学・工学・生命系など多岐にわたる専門グループを配置し、異分野融合研究への技術支援や、技術の継承・若手技術職員の育成を組織的に実施している。窓口機能の集約により、研究現場からの相談に対して系や分野を超えた柔軟な対応が可能となった。

組織と実施体制



センターHPはこちら

農学系



工学系



生命系



○「URA室」の設置

- 大学経営および研究戦略の実行を担う中核機能として、学長直下に「リサーチ・アドミニストレーション室(URA室)」を令和7年5月に設置した。学内のURAの活動を一元的、計画的かつ柔軟に実行し、本学の研究戦略に基づいた研究活動を支える体制を整えた。

【主な役割】

- ・研究企画・戦略立案：大学全体の研究戦略に基づくプロジェクト企画・マネジメント
- ・外部資金の獲得支援：科研費をはじめとする各種競争的資金の申請支援、アドバイス
- ・産学官連携の推進：企業・自治体との共同研究のコーディネートや技術マッチング
- ・知的財産と研究成果の活用：発明の権利化支援、特許・技術の移転促進
- ・研究情報の発信と評価：研究成果の広報、研究力の分析・活用

関連サイト

- 両組織の設置により、研究支援体制は、従来の「個別・断続的対応」から、資金獲得から技術支援、成果の社会還元までを網羅する「戦略的かつ循環型」の体制へと強化された。



★三者連携協力協定の締結(令和7年12月)

●宮崎県医師会及び宮崎県獣医師会と、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)対策に関する連携協力協定を締結。SFTSに関し、医学及び獣医学の専門的知見を相互に活用し、診断、治療、予防、啓発活動、研究等を総括的かつ効果的に推進することで、県民及び動物の健康保持と安全確保を図ることを目的とする。



●SFTS対策に関する連携協力協定の主な項目

- (1) SFTSに関する疫学調査及び研究の共同実施
- (2) SFTS対策に関する情報の共有と技術支援
- (3) 医療・獣医療従事関係者向け研修会・講習会の開催
- (4) 一般県民へのSFTSに関する啓発活動の共同実施
- (5) SFTS感染動物の診療・隔離・搬送体制の整備
- (6) 動物飼育者へのSFTS感染予防指導の実施



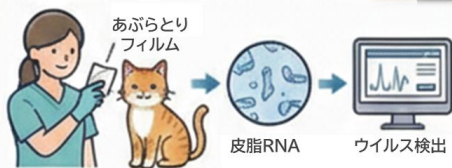
➤ [関連ニュース\(本学ウェブサイト\)](#)

令和7年度の関連研究Topics

研究①: あぶらとりフィルムで簡単検査

✓ネコと検査者、双方の安全を確保

宮崎大学(齊藤暁准教授ら)及び宮崎市の研究チームは、共同研究の中で、あぶらとりフィルムを用いた皮脂RNA解析により、[ネコ](#)の負担軽減と検査者の二次感染防止を両立する非侵襲のウイルス検出方法を確立。特許出願中であり、One Healthの実現にも貢献する技術として早期実用化を目指す。



▲検体を採取する様子(研究の中核を担った獣医学科生・写真左)

研究②: 既存薬から治療薬を創る

✓ネコ用SFTS治療薬の候補を同定

齊藤暁准教授らの研究チームは、ヒト用既承認薬ライブラリからSFTSウイルスの増殖を抑制する4種類の有望な治療薬候補を同定。今後は動物モデルでの有効性評価や臨床試験を進め、早期実用化を目指す。SFTS治療薬の確立は、ネコの救命とヒトへの二次感染防止を両立させ、将来的なヒト医療への応用にも寄与することが期待される。



▼第94回宮崎大学イブニングセミナー(2026年3月)

「SFTSってどんな病気? ~医師と獣医師が語る“健康”のつながり~」



- 宮崎県はSFTS報告数が最も多い地域であり、正しい知識の普及や予防意識の向上が重要となっている。同セミナーでは、医学面から、ワクチンがない現状での最新治療や重症化の特徴を解説。獣医学面から、感染したネコやイヌから人への伝播リスクと予防策が示された。
- 人・動物・環境の健康を守るOne Healthの視点は、地域の安全に不可欠であり、引き続き知的資源を共有し、共生社会の実現に寄与していく。

➤ [関連ニュース\(本学ウェブサイト\)](#)

- 医学部附属病院は、経営状況の改善や働き方改革を目的として、令和8年度から **国立大学病院として全国初となる「木曜休診・土曜診療」への移行**を決定した。
- 従来は休診であった土曜日を診療日とすることで、平日の受診が困難な患者やその家族に対する医療アクセスの向上を図る。一方、木曜日を休診日と設定することで、医師の連続勤務の回避につなげる。
- 本取組は、医師不足や過重労働といった課題に対し、地域特性に応じた診療体制の再編によって解決を図る全国に先駆けた先導的事例であり、国立大学病院における持続可能な運営モデルとして、全国の医療機関への波及も期待される。

➤ 関連動画: [宮大NEWS「宮崎大学医学部附属病院 国立大学初の土曜診療を発表」](#)

概要・目的

詳細はこちら



① 働き方改革

木曜休診により医師の連続勤務を回避



② 経営改善

病床稼働率の向上と施設運用の効率化



③ 患者サービス向上

平日受診が困難な患者・家族への対応

現行
(~R8.3)

月	火	水	木	金	土	日
○	○	○	○	○	休	休

月～金:診療 土・日:休診

新体制
(R8.4~)

月	火	水	木	金	土	日
○	○	○	休	○	○	休

月・火・水・金・土:診療 木・日:休診

具体的取組方針(5つの柱)

01.土曜初診枠の設定

時間:9:00-12:00

体制:各診療科で初診枠を設定

目的:1人ずつ丁寧な診療を実施

02.特殊再診

原則:薬の処方だけの通常再診は行わない

対象:小児の経過観察、眼科の精密検査など
専門的な検査が必要な患者

03.他医療機関からの当日紹介制



専門的な診療が必要

紹介・トリアージ



「翌週紹介」や「救命救急センター搬送」になっていたケースを軽減し、地域連携を強化。

04.土曜入院の積極的活用

- ・土曜に入院・検査→月曜に手術・治療開始
- ・週明けの診療プロセスを円滑化

05.シフト運用の工夫

- ・変形労働時間制や平日振替勤務の活用
- ・地域医療へ支障を生じさせない体制確保

【スポーツメディカルセンターの設置】

SMC SPORTS MEDICAL CENTER

- スポーツ庁委託事業「地域におけるスポーツ医・科学サポート体制構築事業」(令和5～7年度)に基づき、令和7年4月に宮崎大学医学部**スポーツメディカルセンター**を設立した。宮崎県をはじめとする県内の関連団体とコンソーシアムを形成し、宮崎県におけるスポーツ医・科学の拠点として県内のスポーツメディカル資格保有者のリソースを活用しながら、最新かつ最適な知識とスキルを駆使してアスリートおよび県民の健康増進を目指している。

【令和7年度の主な活動】

- メディカルスタッフ派遣・救護活動
- メディカルチェック ○セミナー等の開催 等



▼事業の概要

センターHPIはこちら

宮崎県におけるスポーツ医・科学
コンソーシアム



中央団体との連携



- 同年5月、九州で初めて**国立スポーツ科学センター・ハイパフォーマンスセンター(HPSC)**の**連携機関に指定**され、これにより、国立スポーツ科学センター(JISS)などと連携し、エリートアスリートに対する各種検査も可能となった。スポーツキャンプのメッカである地域特性を活かし、国内外からのスポーツ選手や地域住民のメディカルチェックを通じて、スポーツ外傷・障害の病態解明の研究推進とメディカルサポートシステムの構築を進めるなど、スポーツ医学領域での貢献が競技者等からも高く評価されている。

【高度救命救急センターへの指定】

- 医学部附属病院救命救急センターが、重篤な外傷や疾患など、対応が困難な救急患者を受け入れる「**高度救命救急センター**」として、宮崎県より指定を受けた。
県内の医療機関としては、当院が初の指定となる。



センターHPIはこちら



高度救命救急センター

重症患者の救命医療を24時間体制で担う救命救急センターの中でも、特に高度な診療機能を有し、通常の施設では対応困難な外傷や疾患(広範囲熱傷、指肢切断、急性中毒等の特殊疾病)等の診療を担う機関を指す。

1. 長崎大学・鹿児島大学との3大学間連携協定(J-PEAKS関連)



- 令和7年7月、長崎大学、宮崎大学及び鹿児島大学との地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）に関する連携協定を締結。J-PEAKSにおいて、3者が相互に連携・協力し、プラネタリーヘルスの実現を牽引することを目的とする。
- 本学の強みである人獣共通感染症研究(医学・獣医学)を核とし、カーボンニュートラル関連研究(農学・工学)を加え本事業に参画。各大学の特色を相互に補完・融合させることで、総合的な研究力の高度化を図る。令和8年には、長崎大学に新設されたパンデミック総合研究センターのセンター長に、本学の吉田彩子教授(産業動物防疫リサーチセンター長)が就任するなど、組織の枠を超えた人的・機能的連携強化を加速させている。



▲3大学の学長による調印式の様子



世界水準の
研究力強化へ

3大学の強みを融合
総合的な研究力高度化



プラネタリー
ヘルスの実現

連携により地球規模の
健康課題解決を牽引

宮崎大学の重点領域



人獣共通
感染症研究



GX研究



パンデミック
予測研究

▶ 関連記事: [長崎大学・鹿児島大学との3大学間連携協定を締結しました](#)

2. 鹿児島大学との包括的連携協定(特に教員養成関連)

- 令和7年8月、鹿児島大学と包括的連携協定を締結。これまでの信頼と実績を基盤とした組織的・継続的な協力体制へと発展させ、教職員・学生の交流や共同研究を通じた南九州地域の課題解決と教育研究の更なる発展を強力に推進する。
- 令和7年12月には、教員養成を主たるミッションとして、[一般社団法人南九州高等教育連携機構](#)を設立し、同機構は令和8年3月に[大学等連携推進法人の認定](#)を受けた。
- 当面は、単独では開講困難な科目について、双方の特色あるリソースを連携開設科目として相互提供。将来的には両大学の強みを活かした実技系教科の連携教職課程設置を目指す。令和8年度には、連携開設科目の開講並びに令和10年度連携教職課程設置に向けた
両大学の特色を活かした強みの融合
検討等を行う予定。

両大学の特色を活かした強みの融合

宮崎大学の特色	鹿児島大学の特色
小中一貫教育	少人数教育・ 複式学級指導



▶ 関連記事: [鹿児島大学と包括的連携協定を締結](#)

(一社)南九州高等教育連携機構

宮崎大学と鹿児島大学が相互に連携・協力し、各機関の教育・研究の質向上及び地域の発展に貢献することを目的として設立。
両大学は教員養成課程の共通化や授業の相互開放を推進し、南九州の教員養成・研修の中心的役割を担うことで、地域的教育力向上を牽引していく。